



音楽：ヨハネス・ブラームス  
ピアノ / 照屋恵悟 クラリネット / 伊敷美希

### 【復帰直前の那覇市の全景】

1970年ごろの那覇の海岸を天久の丘から見下ろした風景。手前の港は整備中。泊大橋ができるのは約15年後。背の高いビルもほとんどない。復帰直前の那覇市のパノラマ。

### 【歳末商戦の国際通り】

観光客以上に地元客の多かった70年代の国際通り。映画館、生活雑貨、衣服、書籍などを扱う店舗が多く、歳末商戦も盛り上がった。風に揺れる並木は、銀座商店街から贈られた柳の木。

### 【デパート屋上の遊園地】

現在のホテル JALシティの場所にあった沖縄山形屋。屋上には遊園地があり、子どもたちは寒風の中、はしゃいでいる。

### 【冬の子どもたち】

子どもたちのファッションは、時代の変化を見る上でも楽しめる。60年代は多くの子どもが模様のない単色の服を着ているが、次第に色彩が鮮やかになり、複雑な柄物が増えていく。

### 【お正月の風景】

新聞紙面に「明けましておめでとう」の文字が踊り、新年を告げている。穏やかな日だまりの中でお出かけの準備をする幼子と母親。那覇市泊にある自宅前で家族の記念撮影後、初詣に出かけていく。

### 【お年玉】

おめかしをした男の子が正座し、同じく正座した母親と向き合っている。お年玉を受け取るとき、どんな子どもも良い子である。

### 【初詣と振袖の子どもたち】

波上宮の賑わいは今も昔も変わらない。子どもたちが迷子にならないように気づかいながら、参拝の人々をかき分けて進む。慣れない正装の子どもたちはかわいらしいが、振袖にはしゃぐ女の子とは対象的に、男の子たちは服を汚してはいけないと言われ、居心地が悪そうに見えてしまう。振袖姿で塩せんべいにかじりついている女の子たちが遊ぶのは、沖縄市の中の町周辺。広い道路は舗装されておらず、格好の遊び場になっている。

### 【歌う子どもたち】

自宅の部屋で歌う子どもたち。親戚が集まる正月の宴で一芸を披露するのは、お年玉を期待してなのか。かわいらしくもさまざまな恩恵が錯綜したもの、子ども時代の思い出。

### 【初詣と世界動物博】

1973年の年末年始に、奥武山公園で「世界動物博」が開催された。移動動物園は70年代に流行したイベント。仮設の檻にゾウやキリンなど珍しい動物が待ち受ける。猛獣たちのショーに子どもたちは目を輝かせていた。

### 【二十日正月とジュリ馬行列】

那覇市辻では、旧暦の1月20日に町をあげて盛大な「二十日正月」の祭りが行われていた。歌舞音曲と観衆の声で町が満たされる。目玉は琉装をまとい馬の頭を腰に付けたジュリ馬の行列。多国籍な看板が並ぶ、歴史ある町の華やかなりし日々の記録。

### 【冬の行楽地】

沖縄の冬は海からの風が思いのほか冷たいが、家族の思い出作りは休めない。1970年代の遊園地の映像を二つ。一つは海洋博記念公園のエキスポランド。沖縄最大のジェットコースターは人気があった。また沖縄生まれの遊園地、与那原テックも忘れ難い。シーソーで遊ぶ子どもたちの背後には、埋め立て前の中城湾が見える。古くてスリル満点のジェットコースター、丘の中腹で眺めの良い観覧車、高低差のある園内移動にはリフトが用意され、その独自性は未だに伝説的に語られ続ける。

### 【花見】

寒緋桜が咲く沖縄での花見は冬の最後の行楽チャンス。移動しながらの散策スタイルが沖縄式。映像は今帰仁城跡と名護城の花見の様子。そして本部町伊豆味小学校の校庭の桜と幼い兄妹。無邪気に変身ポーズを決める兄と、なんだか満悦の妹。カメラを回す父親の笑顔も目に浮かぶ。この幸せな時間が、ホームムービーの魅力の全てを表している。

かつての久茂地小学校跡地に建つなは一とのロビーは、広場のように、公園のように、いつでもどなたでも気軽に立ち寄っていただける場所になることを目指しています。同時に、いつ訪れても文化的な体験ができるよう、無料の展覧会などを積極的に展開しています。

2023年度からは、戦後の沖縄で撮影されたホームムービーを「光のアルバム」として、特別な催事がない限りは毎日上映しています。沖縄アーカイブ研究所の真喜屋力さんのご協力のもと、県内ミュージシャンの演奏と合わせて、なは一とのオリジナルバージョンとして制作していただきました。

現在の私たちの文化芸術活動は、先人たちの営みの上にあります。文化芸術は芸術作品だけではなく。日々大切な出来事や美しいものをまなざし、記録し、誰かに伝えたいと思って残す、そうした活動全体が、現在そして未来の文化芸術につながっているのではないのでしょうか。公立劇場のロビーがそうした歴史を思い出すことのできる場所であってほしいという願いを込めて、春夏秋冬、季節ごとの「光のアルバム」をお届けいたします。

### 【8mm 映像撮影】

上原亀千代 遠藤保雄 大城隆盛 嘉納勝 菊池清光 金城真助  
古波津清貞 島袋昇信 島袋正盛 島袋光男 鈴木英二 瀬底真守  
高良広輝 玉城勲 玉城要成 玉寄英一 知念真三 桃原稔 長嶺榮進  
新島義龍 比嘉保夫 外間宏三 外間政一郎 牧志宗八郎 真境名敏夫  
宮島真光 屋富祖正弘 山里景吉 米嵩慎二 (50 音順)

【映像提供】株式会社シネマ沖縄 沖縄アーカイブ研究所

【映像編集】真喜屋力

【音楽】春：三線 / 笛 仲嶺良盛 秋：ピアノ サトウユウ子

|      |                                                                    |      |                                       |
|------|--------------------------------------------------------------------|------|---------------------------------------|
| 夏：演奏 | T-RYM<br>(Album『INTIMATE』より)<br>ギター 知念嘉哉<br>ベース ジェフ藏方<br>ドラム 田場龍之介 | 冬：音楽 | ヨハネス・ブラームス<br>ピアノ 照屋恵悟<br>クラリネット 伊敷美希 |
|------|--------------------------------------------------------------------|------|---------------------------------------|

【録音・整音】森脇将太 (ORLANDO) (春、秋、冬)

【音楽協力】中村亮 (夏、秋)、渡久地圭 (冬)

【執筆】真喜屋力 【編集】たまきまさみ 【デザイン】宜壽次美智

企画 那覇文化芸術劇場なは一と 沖縄アーカイブ研究所

制作 球陽フィルム合同会社

製作 那覇市

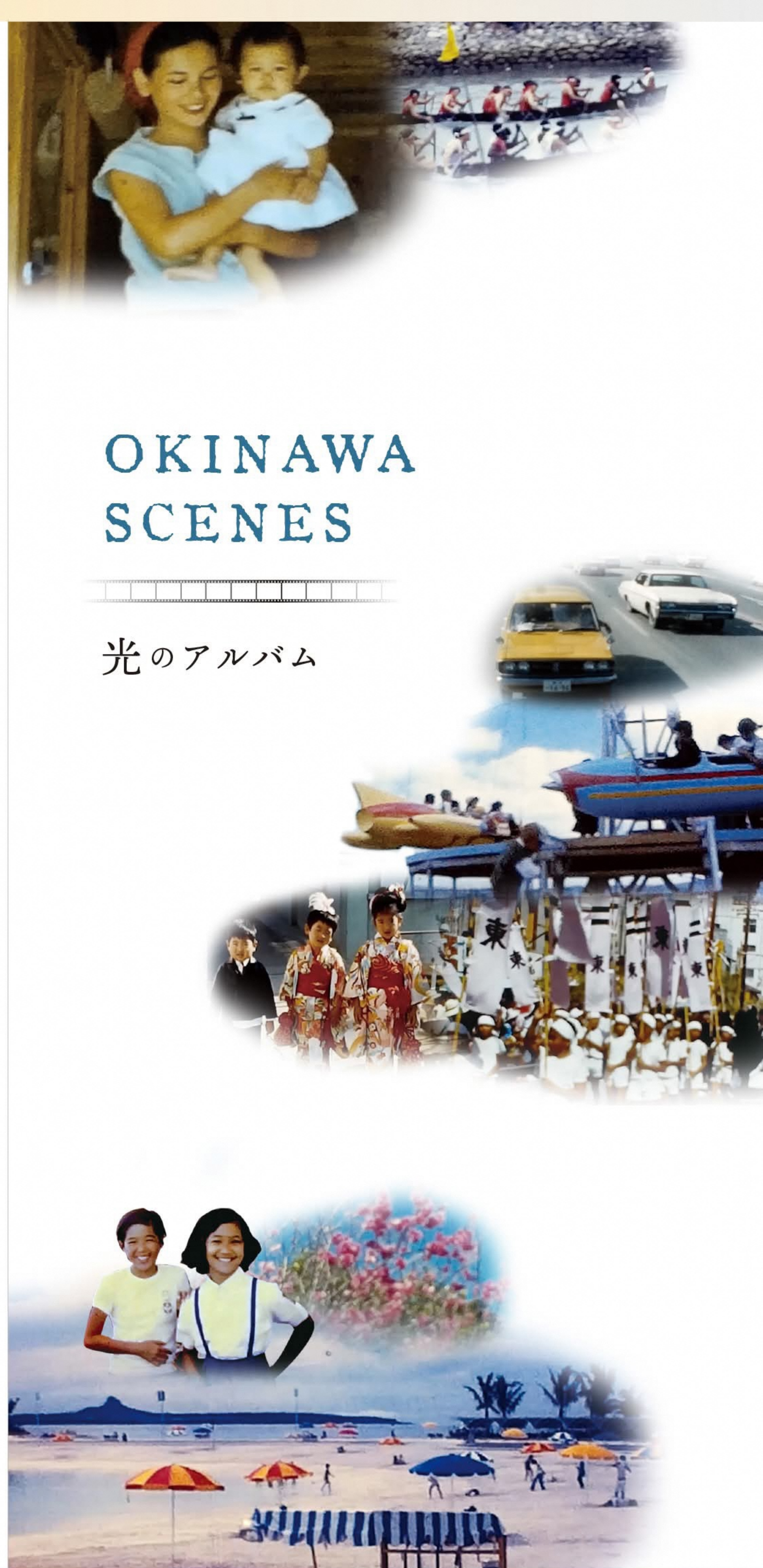
「光のアルバム」は  
なは一と YouTube チャンネルでも公開中！



## 那覇文化芸術劇場なは一と

NAHA CULTURAL ARTS THEATER NAHArt

沖縄県那覇市久茂地3丁目26-27 tel.098-861-7810



## 春 Spring



音楽：三線・笛 / 仲嶺良盛

### 【母と娘の休日 1958年】

春の陽気に誘われて、自宅の窓辺で過ごす母と幼い娘。母親が読書をすれば、娘もその真似をし、横になれば同じポーズを取る。何も起こらない幸福な一日。

### 【入学式】

那覇中学校の正門には、新入生を迎える飾り付けがなされている。この門の近くには漆器の工場があった。夫婦橋付近の自宅から出てきたのは、小学校に入学する男の子。大きな岩の並ぶミートジー（夫婦瀬）の公園を抜けて小学校に面談に向かうところ。公園のグラウンドでは少年野球が行われている。

### 【那覇市 国場ビルより 1971年】

1970年に建てられ、今も変わりなくそびえる国場ビル。そこから見える風景は大きく変わった。久茂地小学校、少年会館(後の久茂地公民館)はもうない。そして遠くに見える泊港北岸は、まだ埋め立ての途中。発展途上の変わりゆく那覇の風景が広がっている。

### 【シーミーの日】

シーミー(清明祭)の日。祖先の墓に集う人々のさまざまな姿。祖先に感謝を伝え、生者と死者がともに祝う宴。一族の絆を確認する穏やかな祀り。

### 【子どもの日】

道路の舗装もまだ行き届かない戦後復興の時代から、子どもの成長を願うお祝いは欠かせない。物のない時代の映像だからか、健やかな未来を見つめる眼差しを感じる。70年代に那覇市識名で撮影された映像には、新聞紙を折った大きな兜をかぶった子どもが登場する。この子もすでに兜に見合った身長に成長しているはずだ。

### 【戦争の記憶】

かつて、ひめゆりの塔には十字架があり、青年会が作った鳥居が同居していた。宗教を超えた戦没者への深い想いは、過去の悲劇ではなく、生き残った者の務めのような切実さを感じさせる。1952年の慰霊祭のカラー映像には、ひめゆりの学徒たちを引率した仲宗根政善氏と、彼を囲むように生き残った元



## 夏 Summer



音楽：演奏/T-RYM (Album『INTIMATE』より)  
ギター / 知念嘉哉 ベース / ジェフ藏方  
ドラム / 田場龍之介

### 【いんぶビーチで海水浴 1960年代】

1963年。那覇市安里のバス停から恩納村のいんぶビーチに遊びに行くカブスカウトの子どもたちと父兄。集合場所は琉映本館(映画館)前。バス停の周辺には商店が建ち並び、交通の要所であったことがわかる。恩納村の海岸線には、リゾートホテルはほとんどなく、車窓からは風光明媚な海岸が見渡せる。いんぶビーチは現在閉鎖されているが、復帰前の8ミリ映画にはよく登場する人気のスポットで、施設も充実していた。「海底見学船100万ドル号」は1968年に就航した大型のグラスボートで、いんぶビーチを本拠地に、名護湾から万座毛まで遊覧できる目玉商品だった。

### 【名護以北へのドライブ】

かつて名護の海岸線の道路は、「七曲り」と呼ばれるほど、くねくねと蛇行していた。当時は不便で危険だった道路も、映像で見ると美しいドライブコースだ。1954年の本部の海岸でカメラを回す家族連れの映像。手にしているのは8ミリカメラ。運天港へのドライブは1970年代。「新沖縄観光名所」と彫られたプレートから、観光地として盛り上げようとする時代の空気が感じられる。大宜味村の塩屋大橋は1963年の映像。カメラ前を横切るタクシーは、時代を象徴する黄色いトヨペットクラウン。そこからガードレールのない海岸線を北上し、今は使われていない座津武トンネルへ。そこを抜けたところにあった通称「ゴジラ岩」、「茅打バンタ」と「戻る道」を経て最北端の辺戸岬から見た「大石林山」が映し出される。

### 【EXPO75 沖縄海洋博覧会の思い出】

海上に浮かぶ水上都市「アクアポリス」は1975年に開催された沖縄国際海洋博覧会のシンボル。その未来的な建造物を見ようと、多くの人が海洋博開催前から見物に出向いた。遠巻きに海上を眺める子どもの帽子の内側にはサングラスが付属していて、これをかけることでさらに未来感を楽しんでいた。海洋博会場へは那覇からホバークラフトと水中翼船の直行便も出ていた。

### 【ビーチでのレクリエーション】

近所の子ども会や、大所帯の一族のビーチパーティーなどでは、さまざまなレクリエーションが用意されていた。メガホンのような筒を目隠しにしてボールを蹴る競争は定番だったのか、さまざまなフィルムに記録されている。

### 【青年エイサー大会の記録】

エイサー大会と言えば沖縄市が有名だが、那覇でも「沖縄青年エイサー大会」の名で開催されていた。映像は沖縄高校(現・沖縄尚学高校)で1970年に撮影された大城青年会の迫力ある演舞。

### 【旧盆の風景 1970年代の8月ごろ】

先祖の霊を自宅に招き、一族が顔を合わせて交流する旧盆の祀り。旧盆初日のウンケーの日に、玄関先で火を焚いて先祖の霊をお迎える様子も映し出される。

### 【大丸製氷所の人々】

暑い盛りに製氷工場で働く人々の映像。冷蔵庫が普及する以前に成功をおさめた製氷工場。その礎を築いたのは、開南バス停前にあった大丸商店だった。復帰前の開南は、人でひしめく交通の要所であった。商工祭の映像は大丸製氷所の方が撮影したもので、イベントなどにも氷は大活躍だった。

### 【中城湾内のシナーラ号】

かつて英国のチャーチル元首相がオーナーだったこともあるヨット「シナーラ」での船遊びの記録。現在の南城市佐敷にあった佐敷マリーナの黄色いタンクが懐かしい。船遊びの主催は第二尚氏22代当主の尚裕氏。中城湾に停泊するヨットで優雅に過ごす珍しい映像。

### 【夏休みと子どもたち】

那覇市の若狭海岸に泊大橋ができる前の風景。広がる浅瀬で潮干狩り、貸しボート屋からは水上スキーのボートまで出ていた。そして外で遊ぶ元気な子どもたち。モノクロ映像の路地は那覇高校の裏手。都会となった那覇の街にもこういう路地が多かった。

## 秋 Autmun



音楽：ピアノ / サトウユウ子

### 【小学校の運動会】

1960年代に撮影されたモノクロの運動会。競技ではなく食事風景。応援に駆けつけた家族とみんなで取る食事は、運動会の楽しみの一つ。那覇市の神原、天妃、久茂地の三つの小学校の運動会。いずれも卒業生やその家族にとっては懐かしい校舎や校庭が映っているはずだ。天妃小学校は隣の上山中学校の校庭を使っているため、戦火から焼け残った年代物の校舎が映っている。

### 【塩屋のウンガミ】

「塩屋のウンガミ」は、沖縄本島でも最も古い形を残した祭祀。復帰前後の貴重な映像。2022年に102歳で亡くなられたノロの山城トヨさんの姿が、王朝時代から続くノロを示す曲玉(まがたま)とともに映っている。

### 【百名ビーチから斎場御嶽へ】

モノクロの寒々とした百名ビーチから沖縄本島最大の聖地「斎場御嶽」を巡る人々。1960年代の斎場御嶽の周辺は、今ほど緑に覆われていない。戦災で焼けたのではなく、薪などに使われていたという証言もあった。

### 【名護市 城区の奉納祭 1963年秋】

名護市城(ぐすく)の集落で、旧暦の9月に行われる村踊り。中でも七福神の踊りは昭和6(1931)年に玉城金三氏によって辺野古で発案され、城にも伝えられたオリジナルの舞踊。

### 【名護市 陸上競技場】

1960年11月に第八回九州各県対抗陸上競技大会が、名護町(現・名護市)で開催された。観客はスタンドだけでなく、近隣の高台をも埋め尽くすほど大いに盛り上がった。日の丸の掲揚や、君が代の斉唱もあったが、米軍統治下の沖縄では画期的で、涙する人もいた。

### 【旧那覇市最後の大綱挽】

1961年、戦後の合併前の旧那覇市(東町、西町、泉崎、若狭)を中心とした期成会の主催で那覇大綱挽が戦後初めて行われた。会場は若狭大通りが使用された。当時、久米にあった郵便局の建物が映っている。戦災で消失した旗頭は、この時に作り直された。立ち上がった旗頭を仰ぎ見る人々の視線に胸が熱くなる。衣装に関しては、子どもたちの分は用意されず、学生服や私服で行列に加わっているのがわかる。旗頭の行列の背景には、若松問屋街も映っていて、現存する建物も散見できる。

### 【那覇市による大綱挽復活 1971年】

戦前の旧那覇市に、首里市、小禄村、真和志市が合併した戦後の新しい那覇市による正式な大綱挽が復活したのは1971年。半年後の日本復帰を祝うように盛大に行われた。地域が広がったことで旗頭も新たに作られ、衣装から楽器、太鼓の調子まで、可能な限り調査し復元するなど気合も充分である。旗頭行列も那覇市内の広範囲で行われ、8ミリ映像にもメイン会場の久茂地交差点や国際通りはもちろん、那覇高校正門、裁判所通りにあった刑務所のレンガ塀など懐かしい風景が見られる。また国際通りでは上階の窓から行列を見下ろす家族の姿などが映る。国際通りの商店が店舗兼自宅であった時代の記録にもなっている。

### 【秋の踊り】

最後に映るのは国頭村辺土名のバスターミナル。そして自宅の庭先で琉球舞踊を踊る妻を撮影する映像。穏やかな、そして変わらぬ沖縄の秋の一日が、ゆっくりと刻まれていく。

